

多賀城の遺跡の謎に挑戦

古代都市多賀城から発掘された遺物は、いったい何なのか?! 答えがない問いを考えてみよう!!

下の2点は、多賀城の遺跡から発見されたものですが、その正体は何なのか、まだはっきりしていません。「1」は、池の跡から出てきたもので、木でできています。1 つは大きく舟形のもの、あとは小さな花びらのような形のものが3種類です。



4 つとも池の跡から見つかりました。現在、大学の先生に調査を依頼しています。

「2」は、当時、煮炊きに使われていた鍋に使っていたような土器が、口を合わせたようにくっついて、道路の四つ角のわきに埋められていました。



「1」について実物を見たい方には、7月28日~30日の10時~12時の間に文化センター内埋蔵文化財調査センター事務室まで来ていただければ、実物をお見せします。
「2」については、同じく多賀城市埋蔵文化財調査センターで開催されている「発掘された遺跡」展で7月25日まで、見るができます。(観覧無料です。)

どちらも、研究者の方が調べていて、予想をいくつか考えています。しかし、まだ推測の状況です。それに賛成してまとめていただいても、別の結論を考えてもかまいません。もしかすると、皆さんの推測が注目される可能性もあります。

この夏、自由研究のテーマでこの謎に挑戦してみませんか。
正解がわからない問題です。発想を生かして古代の日本の生活について、すばらしい謎解きを期待しています。

挑戦したいと思った皆さんへ

多賀城は724年、奈良時代に、朝廷が東北を統治するために設置しました。アテルイなど蝦夷（えみし）との戦いが歴史として記録されていますが、戦いがずっと続いていたわけではなく、平和な時は、蝦夷の人々と交流があり、文物や文化の拠点ともなっていました。

平安時代に入っても、庶民の生活は、まだ竪穴式住居でしたが、現在、復元のために建設中の南門は、屋根に瓦をのせた高さ約14mの壮大な門であり、当時の日本の最先端の技術が使われていました。

多賀城から、南門を出るとその南には、平城京、平安京と同じような道路のある街並みが広がっていて、掘立柱建物や井戸、畑などがありました。

「1」の舟形の木と、花びらのような木片は、このまちの池の中から見つかりました。1000年以上前の木は、ほとんどが朽ちてなくなっていますが、水分の多い土の中に浸かっていたために、きれいに残っていました。これはいったい、何なのでしょう。当時の生活を想像しながら、この謎に挑戦してみてください。

「2」の2つの土器がくっつけられているようなものは、道の交差点（四つ角）のわきに写真のように埋まっていた。いったいこの土器は、何のために埋められていたのでしょうか。

- 1 応募資格
 - ・小学生および中学生で、「1」または「2」または「1」「2」両方の謎を解こうと考えた人
- 2 応募の方法
 - (1) ノートや原稿用紙、画用紙などやパソコンでのまとめなどまとめ方は自由です。作品は、担任の先生まで提出してください。各学校で応募があった場合は、とりまとめて教育委員会に送ってください。（学年・学級、氏名と学校名をわかるようにして提出ください。謎解きは1つだけでもかまいません。）
 - (2) プレゼンとしてまとめた場合、動画や録音があれば、印刷して提出していただいてもかまいません。電子媒体で提出したい場合や動画や録音付きでまとめた場合には、締め切り日までに下記までメールでお知らせください。追って、提出先のフォルダをお知らせいたします。
- 3 審査について
 - ・優秀な作品については、審査の上、教育委員会から表彰します。
 - ・審査は、それが正解かどうかではなく、発想の豊かさや、謎解きの筋道をきちんと考えているか、きちんと根拠をもって結論まで考えているかななどを総合的に判断します。
- 4 締め切り
 - ・9月1日（水）
- 5 その他
 - ・不明な点がありましたら、題名を「多賀城の遺跡の謎に挑戦について」として、下記メールで問い合わせてください。
 - ・問い合わせメールアドレス kyoiku@city.tagajo.miyagi.jp